

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学院(学部)図書室および大学院共同研究室を、院生会の要望も入れながら整備する。	→大学院(学部)図書室および大学院共同研究室の整備。	B	B	/	/	/
2. ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)の任用による教育研究支援体制を整備する。	→専門科目におけるTAの任用者数(2013年度までに1名以上)。特定プロジェクトへのRA任用者数(1名以上)。	C	C	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	<p>(説明)</p> <p>研究科においては自治組織である「院生会」が、大学院共同研究室や大学院(学部)図書室の利用および設備整備に関してなど、研究環境に対する学生のニーズを集約し、それを基に研究科と調整を行っている。2010年度は計4項目の要求事項(履修登録に係る事項、共同研究室の設備に係る事項など)を調整、うち2項目において改善に向けての進捗をみた。2011年度も計3項目の調整を進行中である(全学的な設備に関する調整も含む)。</p> <p>現在、大学院(学部)図書室および大学院共同研究室の整備状況は以下のとおりである。</p> <p>■ 研究科(学部)図書室： 大学図書館への配架分は除く。 蔵書冊数(システム登録済み冊数)： 図書 14,925冊(14,925冊)、和雑誌 81タイトル・908冊(551冊)、外国語雑誌 244タイトル・4,264冊(4,257冊)。 うち、2010年度購入図書について、専門領域別には以下のものであり、聖書学を中心に各領域を網羅している。なお、近年キリスト教文化領域(歴史神学を含む)の図書に関して増加が著しい。 旧約聖書学 91冊、新約聖書学 79冊、歴史神学 41冊、組織神学 54冊、実践神学 209冊、一般 21冊、Corpus 15冊。 開架状況： 全面開架</p> <p>■ 大学院共同研究室： 個人ロッカー： 在籍者数分を用意(計54個)。 PC等機器： ウィンドウズPC・計3台(聖書学ソフトウェア/聖書地図ソフトウェア/特殊ギリシャ語フォントなど利用可)、両面カラー・レーザープリンタ計1台。</p> <p>■ その他、機器の整備状況： PC教室・ユーザPC・計20台、授業利用貸し出しノートPC・計2台(以上、学部生と共用)。学生の要望により、聖書フォント(ギリシャ語およびヘブライ語フォント)を全学の標準PCに導入している(2011年4月より)。</p>
その他	

《評価指標データ》

専任教員の研究費（実績）【大学基礎データ】
 専任の研究旅費【大学基礎データ】
 学内共同研究費【大学基礎データ】
 教員研究費内訳【大学基礎データ】
 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○教育研究支援体制の向上が望まれます。

【学内委員】

○TA、RAの任用状況および教員の研究環境についても、記述が求められます。

○院生会のニーズを把握しながら整備を進めておられるということですが、研究科としての適切と考える環境や条件に対して現状がどうかを検証することが望まれます。現状説明の記述だけではわかりかねます。

○研究環境などに関する記述も欲しいところです。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・記述だけでは現状の環境が適切であるのかどうか、神学研究科としてどう考えているのか、よくわかりません。

・教育研究環境の整備については順調に進展しているようですが、現状のどこが不十分なのか、さらに具体的な記述が望まれます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 2009年度設定目標2 (TA、RAの任用)については、引き続き検討課題となっている。教員の研究環境としては、2011年度に新しい教授研究館(神学部教員が多く利用)が竣工し、一人当たり24㎡の個人研究室が実現している。